

令和元年6月26日現在

機関番号：32689

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K16716

研究課題名（和文）20世紀フランス語圏カリブ海文芸誌の調査研究

研究課題名（英文）Research on French Caribbean Literary Magazines in the 20th Century

研究代表者

中村 隆之（Nakamura, Takayuki）

早稲田大学・法学大学院・准教授

研究者番号：20510085

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,600,000円

研究成果の概要（和文）：この研究は、20世紀のカリブ海のフランス領マルティニクとグアドループで、どのような文芸誌がこれまでに出版されてきたのかを調査し、なかでも、どの文芸誌が重要であったのかを研究することを目的とした。本研究期間、マルティニク島への現地調査、フランスにおける資料収集を実施した。主な研究成果としては、1970年代の雑誌『アコマ』をめぐる日本語の論文、同雑誌について国際学会で発表をおこなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

学術的な貢献として、文芸誌の調査と分析をとおして、フランス語圏のカリブ海文学は、フランス語やフランス本土との関係だけでなく、英語圏やスペイン語圏の近隣の諸国との関係において成立していることを提示することができた。その具体的な成果は『アコマ』研究の日本語論文（オープンアクセス）であり、フランス語でも学術論文として成果公表する予定である。この間、関連する仕事として単著『エドゥアール・グリッサン』、グリッサン『痕跡』の日本語訳を出版することで社会的な貢献をおこなった。

研究成果の概要（英文）：This study aimed to research the literary magazines that have been published in Martinique and Guadeloupe, two French Caribbean territories, throughout the 20th century and detect those that are of importance. The research involved an on-the-spot investigation at Martinique, gathering material sources in France. The main findings were a Japanese article on ACOMA, a literary magazine in the 1970s, and a presentation on the subject at an international congress.

研究分野：カリブ海フランス語文学

キーワード：フランス語圏文学 カリブ海 アメリカス（複数のアメリカ） エドゥアール・グリッサン

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

この研究を開始した当初、カリブ海域のフランス語文学研究は作家に特化したもの、あるいは作家同士の比較が主流を占めており、文学史の展望に立つ研究は少なくなっていた。従来の文学史は、言語を中心とした一国的な記述や、文学運動(ネグリチュード、アンティル性、クレオール性)を区切りとした叙述が主流を占めてきた。

2. 研究の目的

この研究では、20世紀カリブ海域のフランス語文学を、個々の作家や共同作業(文学運動)からなる相互的なネットワークのプロジェクトと捉えるところから、文学史を再考することを目的とした。そのために本研究が題材としたのが文芸誌である。カリブ海における文芸誌は20世紀前半から出版され始めており、なかでも重要なのはエメ・セゼールとシュザンヌ・セゼールが中心となった雑誌『トロピック』(1941-45)である。しかし『トロピック』の以前にも1930年代にパリで黒人学生を中心とする雑誌が刊行されており、また『トロピック』以降の重要な雑誌にはエドゥアール・グリッサンが編集した『アコマ』(1971-73)がある。これらの雑誌の分析を通じて文学史を再考することがこの研究の目的である。

3. 研究の方法

2つの方法でもって調査と分析をおこなった。資料面の調査は、マルティニク島やフランスでおこない、収集に努めた。また世界各地の古書店をつうじて関連する雑誌や、雑誌研究に寄与する資料を収集した。それとともに、復刻版も刊行されている重要な雑誌である『トロピック』や『アコマ』についてはそれぞれの誌面を読み、分析をおこなった。とくに『アコマ』については国内外で十分な研究がなされていないこと、また本研究における核心をなす資料体であることから、この雑誌の研究に注力した。

4. 研究成果

本研究期間内に発表した主要研究成果は「エドゥアール・グリッサンと『アコマ』」と題した3つの日本語論文である(雑誌論文、)。この論文において雑誌『アコマ』の全資料の読解と分析をおこなった。『トロピック』にしても『アコマ』にしても、雑誌がフランスとの関係のみならず、アメリカ諸地域との関係において成立している点が、カリブ海文学の特徴であることを解明することができた。またこの間にセネガル、マルティニクで開催された国際学会に参加し、発表をおこなうとともに研究者間のネットワークを構築した(学会発表、)。収集した資料を活かした雑誌研究としてはパリの国際シンポジウム(学会発表)での発表において公表した。その他、本研究と関連する共同研究(とくに『プレザンス・アフリケーヌ』研究)との共同の成果を公表するとともに(雑誌論文、) 図書の刊行を通じて学術研究の社会的還元にも努めた(図書、)。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計6件)

中村隆之、「エドゥアール・グリッサンと『アコマ』(1)」『立命館言語文化研究』27(2.3)、査読無、2016年02月、p.189 - 205

中村隆之、「アリウン・ジョップ「ニヤーム・ンゲラあるいは『プレザンス・アフリケーヌ』の存在理由」(翻訳と解説)」『アジア・アフリカ言語文化研究』94号、査読有、2017年09月、p.365 - 382

中村隆之、「エドゥアール・グリッサンと『アコマ』(2)」『立命館言語文化研究』29(4)、査読無、2018年03月、p.29 - 50

中村隆之、「『ユニオンジャックに黒はない：人種と国民をめぐる文化政治』(ポール・ギルロイ著、田中東子・山本敦久・井上弘貴訳、月曜社、2017)」『社会思想史研究』42、査読無、2018年09月、p.181 - 185

中村隆之、「ダヴィッド・ジョップの「アフリカ」」『アフリカ研究』94号、査読有、2018年12月、p.61 - 72

中村隆之、「エドゥアール・グリッサンと『アコマ』(3)」『人文論集(早稲田大学法学会)』57号、査読無、2019年03月、p.164 - 130

[学会発表](計8件)

Takayuki NAKAMURA、《Édouard Glissant et la revue *Acoma*》、30e Congrès mondiale du Conseil International d'Études Francophones(Conseil International d'Études Francophones)、2016年5月26日

中村隆之、「マルティニク島県立文書館およびシェルシェール図書館所蔵のカリブ海文芸誌について」大東文化大学語学教育研究所2016年度第1回研究発表会(大東文化大学語学教育研究所、2016年06月20日)

中村隆之、「「国民詩」論争とは何だったのか? 1950年代フランス領アフリカ・カリブの文化の政治」(フォーラム「アフリカ独立期における文化の政治：プレザンス・アフリケーヌ研究」内の発表)、日本アフリカ学会第54回学術大会(日本アフリカ学会)、2017年

05月21日

Takayuki NAKAMURA、《Les animaux dans le monde romanesque de Glissant: une lecture de *La Case du commandeur*》、31e Congrès mondiale du Conseil International d'Études Francophones(Conseil International d'Études Francophones)、2017年06月30日

Takayuki NAKAMURA、《Littérature, langue et politique: les enjeux autour du débat sur « la poésie nationale » 》、国際シンポジウム「プレザンス・アフリケーヌ研究: 超域的黒人文化運動の歴史、記憶、現在」(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同利用・共同研究課題「プレザンス・アフリケーヌ研究: 新たな政治=文化学のために」) 2017年08月23日

中村隆之、「エドゥアール・グリッサンにおける群島の思考」国際シンポジウム「世界文学から見たフランス語圏カリブ海 ネグリチュードから群島の思考へ」(早稲田大学現代フランス研究所、日仏会館フランス国立日本研究所)、2018年03月25日

中村隆之、「20世紀の黒人詩人ダヴィッド・ジョップにおける<現前するアフリカ>(フォーラム「文学・運動・メディア: プレザンス・アフリケーヌ研究2」内の発表)」日本アフリカ学会第55回学術大会(日本アフリカ学会)2018年05月26日

Takayuki NAKAMURA、《Modernité noire chez les étudiants et intellectuels antillais à Paris durant l'entre-deux-guerres》、Paris créole: son histoire, ses écrivains, ses artistes(XVIIIe-XXe siècle)(Sorbonne Université, Université des Antilles)、2019年02月28日

〔図書〕(計4件)

中村隆之、『エドゥアール・グリッサン: 「全-世界」のヴィジョン』岩波書店、2016年02月、225頁

中村隆之(訳)、エドゥアール・グリッサン『痕跡』水声社、2016年12月、255頁

中村隆之、「フランス領植民地はどのような道を選択したのか」「古くて新しいクレオール」「フランスのカリブ海移民社会」「フランス語圏文学への招待」「旧フランス植民地の多様性とフランス海外県」、国本伊代編著『カリブ海世界を知るための70章』明石書店、2017年06月、78-81、138-141、154-157、194-197、230-233頁

中村隆之(編訳)、『ダヴィッド・ジョップ詩集』夜光社、2019年03月、93頁

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年:
国内外の別:

取得状況(計 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
取得年:
国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名:

ローマ字氏名:

所属研究機関名:

部局名:

職名：

研究者番号（8桁）：

(2)研究協力者

研究協力者氏名：

ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。